教師力・授業力をひらき、倍加する

新時代の教職大学院

2026

国立大学法人

山梨大学大学院

教育学研究科 教育実践創成専攻

（教職大学院）

研究科長からの挨拶

教育学研究科長
長谷川　千秋

山梨大学教職大学院は、現職教員院生と学部卒院生（ストレートマスター）がともに学び研鑽を重ねながら、教師としての力量をさらに高めていく場です。院生は、「学校教育での現代的課題」「特別支援教育」「教科領域の実践」「教科横断・校種縦断を目指した教育のあり方」など自身の研究テーマを設定し、実習と課題研究を通して実践的研究を行います。理論と実践に裏打ちされた研究があるからこそ、自らを大きく成長させ、現場で輝くリーダーとして巣立っていけるのです。ぜひ、教職大学院の門戸を叩いてみてください。

専攻長からの挨拶

教育実践創成専攻長
茅野　政徳

現職教員院生の多くは修了後、自治体や学校の重要な役職に就き、教育をリードする立場となっています。学部卒院生（ストレートマスター）は修了後、２年間で身に付けた理論と実践力をもとに自信をもって教育現場に飛び立ち、即戦力として、またミドルリーダーとして活躍しています。

山梨大学教職大学院が創設されて17年目を迎えますが、修了生の強いネットワークは大きな財産となり、今後も広がっていくことを楽しみにしています。

校種も研究内容も年齢も異なる院生が集うからこそ、新たな考えや発想を得ることができます。未来の教育を担う仲間と専門的な知見を有する研究者が、あなたの入学を待っています。

教育実践創成専攻（教職大学院の課程）

理念・目標

教育に関する高度な実践的専門性を有し、地域の学校の課題に即した学校改善・学級改善・授業改善の構想力・実践力、教育実践をリードする力の育成や、小学校、中・高等学校の各教科において質の高い教育内容研究・教材研究をもとにした授業の構想力・実践力、さらに教科横断・校種縦断に基づく高度な授業開発力の育成を目指します。

大学院教育学研究科教育実践創成専攻（教職大学院の課程）３ポリシーについてこちらからご確認ください。▶

https://www.yamanashi.ac.jp/about/47564

山梨大学教職大学院の特色

～山梨大学教職大学院のここがすごい!!～

ここがすごい 1

【TT（ティーム・ティーチング）】

本教職大学院の授業は、主に少人数での演習で、基本的に研究者教員（20人）と教育委員会教育監・指導主事、学校長等を歴任した実務家教員（13人）のTT（ティーム・ティーチング）です。

学校の教育活動について理論と実践を同時に学ぶことができます。

実務家教員の先生方により教育学部出身者でない院生向けに【授業実践ゼミナール】（全８回）も開講しています。

教育・研究や教採対策について相談できる充実した環境が整っています。

客員教授
桐原　ひかる

受験者に向けて

「授業実践ゼミナール」では、主に教育学部以外から進学してきたストレートマスターの１年生が、授業づくりや生徒指導、学級経営などについて、相互の課題や問題意識を共有し、講義や話し合いを通して課題解決を図ることを目的としています。「一人の悩みはみんなの悩み」としてとらえ、現場経験の豊富な客員教授の先生方と一緒に考え、明日に使える実践的な学びを得ることを目指していきましょう。

TT の授業風景

ここがすごい 2

【200時間／１年間の実習】

本教職大学院では、毎年、山梨県内の【連携協力校】となっている小・中・高・特別支援学校にて200時間の実習を行います。ストレートマスターは、教育現場へ出る前に教育現場の雰囲気を体感でき、実践的に経験を積むことができます。

また、現職教員院生は、１年目は所属校以外の学校で実習をすることになり、教育現場を違った角度から見つめ直すことのできる素晴らしい機会となります。

実習先には指導教員が一緒に赴き、実習後には指導教員と話し合い、今後の実習に向けた検討をします。

教科領域実践開発コース
２年次生
ストレートマスター
両角　知優
（※令和６年度当時）

実習について

私は、教育ボランティア先で、今私がこのクラスの担任だったら、と考えたときにまだまだ勉強が必要だ、と思ったことがきっかけで教職大学院への進学を決めました。教職大学院では、現職の先生と一緒に授業を受けてグループ活動をしたり、学部時よりも現場に近い形での長期的な実習を行うことができます。現場に出てからのことに不安があった私にとっては、深い知識が身につくだけではなく、将来現場に出てからのことがイメージしやすくなりました。

実習の様子

教育の場で活きる教職大学院

山梨大学大学院 教育学研究科教育実践創成専攻（教職大学院）

定員：38名（現職教員：14名・一般：24名）

教育実践開発コース

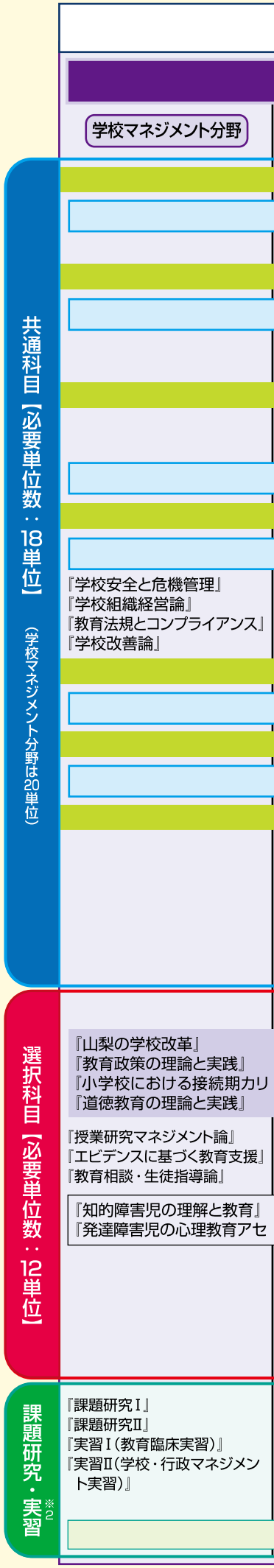
地域や学校の教育課題に対応する力、学校改善をマネジメントする力などの総合的な実践力を有する教員を養成する。また、必修共通科目である「インクルーシブ教育」や特別支援教育分野※1にて開講される科目の学びにより、発達障害を抱えた子どもへの実践的指導力を有する教員を養成する。

学校マネジメント分野	学校経営、学校安全と危機管理、学校改善などに関する力を有し、学校づくりをリードできる教員を育成する。
教師力育成分野	学校が抱える様々な問題を解決する力を有し、カリキュラム開発、教育臨床、異校種間の連携、地域との連携を実践する力を有する教員を育成する。
特別支援教育分野 ※1 （令和８年４月～設置申請中）	障害のある子どもへの合理的配慮の提供のための建設的対話や個々の教育的ニーズに応じた適切な指導を実践する力を有し、同僚と協働するとともに医療や福祉等の関係機関との連携・協働を推進しながら、特別支援教育の先導的な役割を担うことのできる教員を育成する。

教科領域実践開発コース

小学校、中・高等学校の各教科において、質の高い教材研究をもとに授業を開発し、それを適切に評価して改善に役立てることができる教員を養成する。さらに、教科横断・校種縦断に基づき、より高度な授業開発・実践・評価のできる教員を育成する。

初等教科教育分野	小学校の各教科において、質の高い教材研究をもとに授業を開発し、それを適切に評価して改善に役立てることができる教員を養成する。さらに、教科横断・校種縦断に基づき、より高度な授業開発・実践・評価のできる教員を育成する。
中等教科教育分野	中・高等学校の各教科において、質の高い教材研究をもとに授業を開発し、それを適切に評価して改善に役立てることができる教員を養成する。さらに、教科横断・校種縦断に基づき、より高度な授業開発・実践・評価のできる教員を育成する。



教育実践創成専攻　授業科目体系

教育実践開発コース		教科領域実践開発コース	
教師力育成分野	特別支援教育分野（令和8年4月～設置申請中※1）	初等教科教育分野	中等教科教育分野
教育課程の編成・実施に関する領域			
『教育課程の内容と編成』			
		『初等教科横断型・総合型プロジェクト実践論』	『中等教科横断型・総合型プロジェクト実践論』
教科等の実践的な指導方法に関する領域			
『情報教育・ICT活用の理論と実践』			
『授業研究マネジメント論』		『授業研究マネジメント論』	
生徒指導・教育相談に関する領域			
『教育相談・生徒指導論』		『教育相談・生徒指導論』	
『インクルーシブ教育』			
学級・学校経営に関する領域			
『学校・学級文化の創造と学級経営』			
学校教育と教員の在り方に関する領域			
『現代学校・教師論』			
教育実践研究に関する領域　（独自領域）			
『教育・地域課題挑戦プロジェクト実践論』			
特別支援に関する領域			
	『知的障害児の理解と教育』 『肢体不自由児の理解と教育』 『病弱児の理解と教育』 『発達障害児の心理教育アセスメントと支援』		
『行動障害の理解と支援』			
『教職実践高度化演習』			
キュラムの実践と課題』		『国語科の本質と目標・内容構成』『英語科の本質と目標・内容構成』 『社会科の本質と目標・内容構成』『数学科の本質と目標・内容構成』 『理科の本質と目標・内容構成』 『家庭科の本質と目標・内容構成』『音楽科の本質と目標・内容構成』 『図画工作科・美術科の本質と目標・内容構成』 『体育科・保健体育科の本質と目標・内容構成』	
『学校安全と危機管理』 『子どもエンパワーメント論』			
スメントと支援』	『特別支援教育の現代的課題Ⅰ』 『特別支援教育の現代的課題Ⅱ』	『初等国語科の教材研究と授業構想』 『初等英語科の教材研究と授業構想』 『初等社会科の教材研究と授業構想』 『初等数学科の教材研究と授業構想』 『初等理科の教材研究と授業構想』 『初等家庭科の教材研究と授業構想』 『初等音楽科の教材研究と授業構想』 『初等図画工作科の教材研究と授業構想』 『初等体育科の教材研究と授業構想』	『技術科の本質と目標・内容構成』 『中等国語科の教材研究と授業構想』 『中等英語科の教材研究と授業構想』 『中等社会科の教材研究と授業構想』 『中等数学科の教材研究と授業構想』 『中等理科の教材研究と授業構想』 『中等技術科の教材研究と授業構想』 『中等家庭科の教材研究と授業構想』 『中等音楽科の教材研究と授業構想』 『中等美術科の教材研究と授業構想』 『中等保健体育科の教材研究と授業構想』
『課題研究Ⅰ』 『課題研究Ⅱ』 『課題研究Ⅲ』	『特別支援教育課題研究Ⅰ』 『特別支援教育課題研究Ⅱ』 『特別支援教育課題研究Ⅲ』	『課題研究Ⅰ』　『課題研究Ⅱ』　『課題研究Ⅲ』	
『小学校実習Ⅰ（課題発見実習）』又は 『中・高等学校実習Ⅰ（課題発見実習）』 『小学校実習Ⅱ（課題達成実習）』又は 『中・高等学校実習Ⅱ（課題達成実習）』	『特別支援学校実習Ⅰ』 『特別支援学校実習Ⅱ』	『小学校実習Ⅰ（課題発見実習）』 『小学校実習Ⅱ（課題達成実習）』	『中・高等学校実習Ⅰ（課題発見実習）』 『中・高等学校実習Ⅱ（課題達成実習）』

【必要単位数】　◎課題研究（必修）：6単位（学校マネジメント分野は4単位）　◎実習（必修）：10単位（学校マネジメント分野は5単位）

※1 ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期等が変更になる可能性があります。　※2 実習に係る交通費（実費）は各自負担となります。

どんなカリキュラムで学んでいるの【履修モデル】

教育実践開発コース　教師力育成分野　履修モデル（ストレートマスター）

1年　前　期

	月	火	水	木	金
Ⅰ 9:00–10:30	情報教育・ICT 活用の理論と実践	M1 小学校実習Ⅰ（課題発見実習）			教育課程の内容と編成
Ⅱ 10:40–12:10					現代学校・教師論
Ⅲ 13:10–14:40			教職実践高度化演習		M1 課題研究Ⅰ【隔週】
Ⅳ 14:50–16:20	学校・学級文化の創造と学級経営		授業実践ゼミナール		
Ⅴ 16:30–18:00					

2年　前　期

	月	火	水	木	金
Ⅰ 9:00–10:30			障害児の指導法	M2 小学校実習Ⅱ（課題達成実習）	
Ⅱ 10:40–12:10	授業研究マネジメント論				
Ⅲ 13:10–14:40	学校安全と危機管理				M2 課題研究Ⅲ【通期・毎月】
Ⅳ 14:50–16:20					
Ⅴ 16:30–18:00	インクルーシブ教育				

1年　後　期

	月	火	水	木	金
Ⅰ 9:00–10:30		M1 小学校実習Ⅰ（課題発見実習）	子どもエンパワーメント論		
Ⅱ 10:40–12:10	教育・地域課題挑戦プロジェクト実践論				
Ⅲ 13:10–14:40	発達障害児の心理				M1 課題研究Ⅱ【隔週】
Ⅳ 14:50–16:20					
Ⅴ 16:30–18:00	教育相談・生徒指導論				

2年　後　期

	月	火	水	木	金
Ⅰ 9:00–10:30				M2 小学校実習Ⅱ（課題達成実習）	
Ⅱ 10:40–12:10			教育政策の理論と実践		
Ⅲ 13:10–14:40					M2 課題研究Ⅲ【通期・毎月】
Ⅳ 14:50–16:20					
Ⅴ 16:30–18:00					

集中講義
山梨の学校改革

教科領域実践開発コース　中等教科教育分野　履修モデル（ストレートマスター）

1年　前　期

	月	火	水	木	金
Ⅰ 9:00–10:30	情報教育・ICT 活用の理論と実践	M1 中・高等学校実習Ⅰ（課題発見実習）			教育課程の内容と編成
Ⅱ 10:40–12:10					
Ⅲ 13:10–14:40	国語科の本質と目標・内容構成		教職実践高度化演習		M1 課題研究Ⅰ【隔週】
Ⅳ 14:50–16:20	学校・学級文化の創造と学級経営		授業実践ゼミナール		
Ⅴ 16:30–18:00					

2年　前　期

	月	火	水	木	金
Ⅰ 9:00–10:30				M2 中・高等学校実習Ⅱ（課題達成実習）	
Ⅱ 10:40–12:10	授業研究マネジメント論		社会科の本質と目標・内容構成		現代学校・教師論
Ⅲ 13:10–14:40	英語科の本質と目標・内容構成				M2 課題研究Ⅲ【通期・毎月】
Ⅳ 14:50–16:20					
Ⅴ 16:30–18:00					

1年　後　期

	月	火	水	木	金
Ⅰ 9:00–10:30		M1 中・高等学校実習Ⅰ（課題発見実習）	中等国語科の教材研究と授業構想		
Ⅱ 10:40–12:10	教育・地域課題挑戦プロジェクト実践論				
Ⅲ 13:10–14:40	発達障害児の心理				M1 課題研究Ⅱ【隔週】
Ⅳ 14:50–16:20	初等国語科の教材研究と授業構想				
Ⅴ 16:30–18:00					

2年　後　期

	月	火	水	木	金
Ⅰ 9:00–10:30				M2 中・高等学校実習Ⅱ（課題達成実習）	中等教科横断型・総合型プロジェクト実践論
Ⅱ 10:40–12:10					
Ⅲ 13:10–14:40					M2 課題研究Ⅲ【通期・毎月】
Ⅳ 14:50–16:20					
Ⅴ 16:30–18:00	教育相談・生徒指導論				

※令和７年度現在の履修モデルです。

どんな研究をしているの

● 課題研究

院生は学年毎に研究テーマを決め、研究内容を観察・調査・実践及び結果のプレゼンテーションと討議を行います。その中で学校教育における今日的な課題を探り、解決に向けての方向性を考察し、自己省察を行っています。各実践を【教育実践研究報告書】としてまとめ、２月の【教職大学院教育実践フォーラム】において発表しています。

課題研究　【ストレートマスター】/【現職教員院生】

院生の研究テーマ（一例）

- 国語　生涯にわたって古典に親しむための授業開発 －自分流「春はあけぼの」の古文への書き換え活動を通して－
- 社会　小学校社会科における真正の学びの授業実践 －明治から大正期の歴史を学ぶ意味に着目して－
- 数学　数学的問題解決に関する研究 －数学的結論の解釈・評価の過程に焦点をあてて－
- 理科　科学技術に関連した社会的諸問題を導入した理科授業実践および記述分析による評価
- 生活　生活科における知識獲得・活用を図る授業内容の開発と実践 －「花と実」の写真教材の収集・選択とその発問化－
- 音楽　子どもが思いや意図をもって表現を試みるための指導の工夫 －小学校音楽科における歌唱の活動の実践－
- 図工　絵に表す活動における児童の主体性を高める授業づくり －「挑戦できる安心感」「表したいことを豊かにする」の二視点から－
- 家庭　生活の自立と設計の意識を引き出す授業開発 －高等学校家庭基礎衣生活分野の実践を通して－
- 体育　生徒が楽しさを感じる体育の授業づくり －バレーボールのゲームにおけるルールの工夫を通して－
- 英語　小学校外国語科における思考に焦点化した授業改善 －相手意識と学習プロセスの言語化を中心に据えて－
- 道徳　自己を見つめ互いに認め合う学級集団の育成 －道徳科の学習と日常を結びつけることを通して－
- 総合　「総合的な探究の時間」における指導法の研究 －探究の高度化を目指して－
- 特支　高等学校における発達障害のある生徒に対する支援
- 学マ* 県立Ｋ高校における働き方の課題改善の提案 －リーダー層の働き方に焦点づけて－

＊学マ：学校マネジメント分野

【教職大学院 / 教職大学院の教育及び院生の活動 / 教職大学院の研究活動 / 各年度の教育実践研究報告書】▶

どんな授業が行われているの

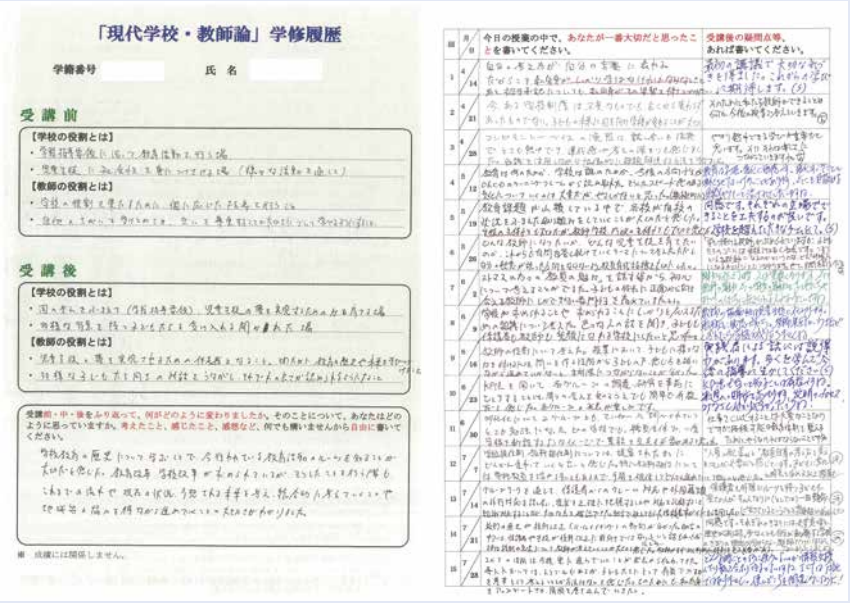
本教職大学院では、学修者が一枚のシート（OPPシート）の中に学修の成果を記録し、全体を自己評価する方法を用いて授業を進めています。

――― 授業の紹介 ―――

「現代学校・教師論」

教育は、日々変化し続ける営みです。校則や学級担任制、評価方法の見直し、ICTの導入、教師の勤務状況の改善など、新たな試みが進んでいます。一方、子どもの家庭環境や保護者と学校の関係性などにも配慮しなければなりません。こうした学校及び教師が置かれた現状を歴史的・社会的背景をもとに捉え直し、現職院生の実務・実践経験と学部卒院生の理想を分かち合い、受講者全員で学校と教師の未来像を描くのが、「現代学校・教師論」です。

【OPP シート】


「現代学校・教師論」学修履歴

学籍番号　　氏名

受講前

【学校の役割とは】

【教師の役割とは】

受講後

【学校の役割とは】

【教師の役割とは】

今日の授業の中で、あなたが一番大切だと思ったことを書いてください。

受講後の疑問点等、あれば書いてください。

教職大学院の

4月 ガイダンス
授業開始

5月 実習開始
（開始時期は一例です）

6月 7月 8月 9月 10月

ホーム
カミングデイ

PICK UP ① 集中講義

PICK UP ② 教育実践フォーラム

学修環境の充実

教職大学院生のための院生研究室が整備され、各院生には自由に使えるＰＣ用の電源が整備され、プリンタ、ロッカー等が常備されています。

ホームカミングデイ

毎年８月の最終土曜日に開催される教職大学院の修了生、在学院生、教職員が一堂に集う同窓会です。

Pick Up ①

集中講義「山梨の学校改革」

山梨大学教職大学院では、毎年夏に５日間の集中講義「山梨の学校改革」を開講しています。この講義では、山梨県教育委員会をはじめとする教育関係機関からゲスト講師をお招きし、山梨の学校を取り巻くさまざまな現状や課題について講義を行います。また、講義後には大学院教員の進行のもと、受講者同士で意見を交わしながら、各回のテーマに基づいた議論を深めていきます。講義の後半には、受講者自身がこれまでの学びをもとにプレゼンテーションを行い、総括的な討論を通して、山梨の新しい学校改革の方向性について考察します。講師から得た幅広い知見をもとに学校教育の未来を多面的に考えることのできる、貴重な機会となっています。

【ゲスト講師の講義の様子】

【討論の様子】

1年間

Pick Up ②

教育実践フォーラム（10月）

教職大学院では、２月の教育実践フォーラム（院生の研究成果発表）に加え、教育に関する様々なテーマについて、フォーラムと題して年に１回の学習会を開催しています。

県・学内外から講師及びパネリストを招聘し、喫緊の教育課題について講演をいただき、講師、パネリスト、在学院生、学外参加者の会場全体で学び、考え、意見交換することのできる貴重な機会となっています。ここ近年では、「発達障害特性のある児童・生徒への通常学級における支援」（第27回）やABD（アクティブ・ブック・ダイアローグ）を用いた［2050年の日本の学校教育］（SDGs）（第29回）などをテーマとして開催され、学びを深めました。

【第27回教育実践フォーラムの講演の様子】

【第29回教育実践フォーラム
ABD（アクティブ・ブック・ダイアローグ）の様子】

11月 研究授業（時期は一例です）

12月 実習終了（終了時期は一例です）

1月

2月 教育実践フォーラム（院生の研究成果発表）

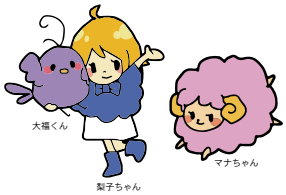
3月 学位記授与式

教育実践フォーラム（院生の研究成果発表）

P7 で紹介されている「課題研究」の授業を通して１年間かけて研究した成果を各自が発表します。

学位記授与式

オルガンの演奏が流れる中１人ずつ手渡しで学位記を受け取ります。大学院で学び経験して得たたくさんのことと専修免許状を手に新たなステージへと向かっていきます。



教職大学院 Q&A

Q1 教職大学院では、どんな人が学んでいるの？

現に教諭として勤務し学校現場で実践経験を積んできている現職教員院生と学部卒院生（ストレートマスター）が一緒に学んでいます。

ストレートマスターには、本学出身者、県内外の他大学出身者がいます。また、ストレートマスターは現職教員に相談に乗ってもらい色々なアドバイスをもらっています。反対に現職教員からはストレートマスターから刺激や気づきをもらうことが多いなどの声が聞こえてきます。ぜひ皆さん一緒に切磋琢磨しながら学んでみませんか !!

Q2 教職大学院って何年間？ どんなことをするの？

本教職大学院に２年間在籍し、必要単位を修得することで、「教職修士（専門職）」の学位が取得できます。最大の特徴は、「連携協力校」における実習です。教職に就く前にきめ細やかな指導の下、実践力を向上させたい！と思う方には、素晴らしい機会となるはずです。

Ｒ７年度は、山梨大学教育学部附属４校園を含めると山梨県内の 96 校が連携協力校となっています。そのうち毎年約 30 ～ 40 校に院生が配置され、年間 200 時間の実習を実施することとなります。

Q3 山梨大学教職大学院の特徴は？

①１年間 200 時間の実習により教育現場の雰囲気を体感でき、実践的に経験を積むことができます。
②実習では毎回、大学の指導教員と授業等の振り返りを行い、今後に活かします。
③少人数での演習、基本的に研究者教員と実務家教員（校長職などを経験した教員）のティーム･ティーチングのため、学校の教育活動について理論と実践を同時に学ぶことができます。
④校種縦断（小・中・高)、教科横断的なカリキュラムから教育のあり方を学ぶことができます。

Q4 入学者（ストレートマスター）の出身校は？

本教職大学院には、山梨大学と他大学の卒業生の両方が入学してきます。

【令和６･7年度の内訳】

山梨大学出身……42%
他大学出身者……58%

【過去数年間の出身校内訳】

山梨大学、山梨学院大学、都留文科大学、山梨県立大学、早稲田大学、中央大学、筑波大学、信州大学、静岡大学、富山大学、青山学院大学、学習院大学、京都外国語大学、創価大学、日本体育大学、明星大学、拓殖大学、常葉大学、城西大学、静岡産業大学、大阪体育大学、大東文化大学、文教大学、東洋大学、神奈川大学、東京女子体育大学、玉川大学、鹿屋体育大学、秋田県立大学、駿河台大学、実践女子大学など

Q5 教職大学院生への経済的支援は？

学業に真摯に取り組む責務を果たす院生は以下の経済的支援を申請できます。

①【現職教員院生】学術奨励金制度（山梨県より派遣された現職教員のみ）があり、２年間で入学金相当の負担を軽減できます。さらに2年目後期の授業料も免除になります。

②【ストレートマスター】年に２回（前期・後期）学術奨励金の修学支援制度があります。

③【ストレートマスター】教職大学院「在籍中に第一種奨学金（授業料後払い制度含む）の貸与を受け、当該年度中に貸与終了する人」には、日本学生支援機構による「奨学金の返還免除制度（教員免除）」があります。「特に優れた業績を挙げたと認められる人で、かつ教職大学院を修了または教職課程認定の大学院を一定の条件のもと修了のうえで教員採用選考試験に合格し、正規教員として採用になる予定の人」が申請できます。

Q6 現職教員として入学するメリットは？

①１年間現場（所属校）を離れて研修することができます。

②１年目の実習は、所属校以外の連携協力校で行うため、教育現場を客観的に観察し、考えることができます。

③ストレートマスターや大学教員、異校種の現職教員、連携協力校の教員などとの協働的な研究活動により、幅広く密度の濃い人間関係が構築され、教員としてのネットワークが広がります。

④特例措置を認定された方は、修業年限１年間にて修了要件 46 単位のうち 39 単位以上を履修することができます。（２年次においては所属校に勤務しながら、教育実践研究を並行して行い月に１回大学に来学します。）

⑤修了後も継続的に相談・指導を受けることができたり、大学教員と共同研究をすることができたりします。

Q7 ストレートマスターとして入学するメリットは？

①学部４年次、大学院１年次、大学院２年次と３回教員採用試験を受験することができます。しかも、山梨県などの一部の地域（要各自確認）では学部４年次、大学院１年次に合格した場合、合格者として登録され、大学院を修了するまで採用が猶予されます。

②長期履修制度があります。（※教職免許法に定める普通免許状（一種または二種）取得のために利用できます。）

③教員採用試験対策のための講座など丁寧な指導があります。

Q8 教職大学院ではどんな免許状を取得できるの？

小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭一種免許状を有する方は、本研究科において教育職員免許法及び同施行規則に定める単位を修得することにより、それぞれに対応する【専修免許状】を取得することができます。

●小学校教諭専修免許状

●中学校教諭専修免許状（国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・技術・家庭・英語）

●高等学校教諭専修免許状（国語・地理歴史・公民・数学・理科・音楽・美術・工芸・保健体育・家庭・英語・書道）

●特別支援学校教諭専修免許状（知的障害）（肢体不自由）（病弱者）（令和8年4月～ 申請中＊）

＊ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期等が変更になる可能性があります。

また、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭一種・二種免許状を学部科目を履修することにより新たに取得することもできます。

※個人の履修状況により取得に要する期間は異なってきます。

※この際の実習校は各自で手配していただくこととなります。

●小学校教諭（一・二種）免許状

●中学校教諭（一・二種）免許状（国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・技術・家庭・英語）

●高等学校教諭（一種）免許状（国語・書道・地理歴史・公民・数学・理科・音楽・美術・保健体育・家庭・工業・英語・情報）

●特別支援学校教諭（一種）免許状（知的障害）（肢体不自由）（病弱者）

私たちが教職大学院の魅力を紹介します

聞かせて!! 在学院生の声

教科領域実践開発コース　２年次生　現職教員

塚越　武史

２年間の教職大学院において、１年目は勤務校を離れて学修に従事します。授業では専門分野について、異校種の教員や学生と意見交流をしながら協働的に学んでいます。授業科目のひとつである課題研究では、自分のテーマに１年間かけて取り組み、毎月１度発表して深めていきます。２年目は現場で勤務しながら、課題研究を進めます。教職大学院での学びを通して教育現場に戻ると、それまでとは違った視点で日頃の問題を捉えることができたことは大きな驚きでした。新たな視点の獲得や自身の学びの幅を広げる上で教職大学院は大きな経験となりました。

教科領域実践開発コース　２年次生　ストレートマスター

保坂　杏樹（長期履修生）

教職大学院の講義はほとんどがディスカッション形式で行われるため、様々な校種や教科を専門とする方々と毎回課題を深めることができます。また、ストレートマスター・現職間の交流の機会が多いことや、専門の先生方によるご指導がとても手厚く充実していることも魅力です。

こんな教師になりたい！という思いを一層強めたり、自身の教育観を見つめ直し深めたりすることのできる、とても素敵な学びの場であることを日々実感しています。

教育実践開発コース　２年次生　ストレートマスター

前田　和奏

教職大学院では、様々な校種・異なる教科等を専攻しているストレートマスターや現職教員と交流する機会が多く、多角的な視点や新たな気づきを得ることができます。また、これまでになかった考え方や教育観に触れることが自らの実践や価値観を見つめ直すきっかけになります。長期間にわたる実習では、講義で得た知識や理論を実際の学校現場で活かすことができます。実習では実習校の協力を得ながら担当教員の継続的な指導を受けて、手厚いサポート体制のもとで学ぶことができます。そのおかげで、自らの指導を客観的に振り返り、次の学びや実践へと確実につなげることができます。

教職大学院で学んだ 修了生の声

修了生は、県内外の小・中・高・特別支援学校などの教育機関で活躍しています。

南アルプス市立八田小学校　校長

石原　裕（第３期生）

「教職大学院」での学びが指針となって

令和の日本型学校教育の構築、いじめ・不登校問題、特別支援教育の充実、教職員の働き方改革、…校長４年目となっても、様々な課題を前に、どのように考え、判断し、組織的に対応していくことが最善なのか、常に考え続けている。その考えのベースとなっているのが、教職大学院での学びである。教職大学院の最大の魅力は、院生及び大学教職員とともに、「主体的・対話的で深い学び」を体感できるところである。修了後も公私にわたってつながり続け、問題解決の糸口を得たり、チャレンジすることの大切さを思い起こさせてくれたりした。

これからの時代には、教師自らが問いを立てて実践を積み重ね、振り返り、次につなげていく「探究的な学び」を教師自らがデザインしていくことが必要になる。そんな時代だからこそ、教職大学院での学びは私たちに「光」を与えてくれることと確信している。

思い切って教職大学院の門を叩いてみてはいかがでしょうか。みなさん一人一人の新たなるステージでの挑戦を応援しています。

甲府市立東中学校　教諭

古屋　拓海（第11期生）

「先生になりたい」という夢が叶った場所

高校生から志した、先生になりたいという夢。「毎日が喜怒哀楽で飽きることのない生活」「子どもと保護者と一生つながるありがとうの輪」。他者貢献が幸せだと感じる私は、そんな職業の魅力に惚れた。そこから高校卒業後、工学部での教職課程の履修、そこで得た免許で入学した教職大学院。そして修了後、遂に夢が叶った。私は先生になった。今でも志した頃の気持ちは変わっていない。先生は最高だ。

これまでの道のりに、私の中で欠かせないものがある。それはやはり、教職大学院という場所での学び。「先生という職の大変さを知る父母のような先生方」「現職から学べる現場の実態」なにより「同じ道を志す仲間」。豊富な人材に支えられて、高め合えて今の私がある。私はこの感謝を、これからの未来を担う子どもたちへ還元していく。

山梨県立甲府東高等学校　教諭

樋口 真理子（第11期生）

教職大学院で得ることができた大事なこと

私が教職大学院に入学したのは2020年４月でした。様々な講座の中で先生方や他校種の現職の方々、ストマスの学生との交流から多様な価値観を学んだこと、実習校での取り組みからこれまでの自分を振り返ることが出来たことなどとても得ることが多かったです。不易流行、社会に求められていることは変化し、それでも本当に大事なことは変わらない中、私たちも学び続け、生徒のため、社会のために頑張ろうと思えたきっかけになりました。

入学試験について

出願資格

教育職員免許法（昭和24年法律第147号）に定める普通免許状（二種以上）を有する方又は令和８年３月までに取得する見込みの方に限ります。

説明会日程

説明会に参加を希望される場合は、右記QRコードから申し込みをお願いします。なお、当日参加も可能です。

令和８年度
教職大学院入学説明会

●Zoomによるオンライン説明会　※どなたでも参加できます。
日時：令和7年7月19日(土)　13:30～15:30（13:00 接続開始）

●山梨大学甲府西キャンパス説明会
【現職教員対象】
日時：令和7年7月31日(木)　16:30～17:30（16:00 受付開始）
場所：国立大学法人山梨大学甲府西キャンパス　N号館3階　N−32教室

【ストレートマスター対象】
日時：令和7年7月26日(土)　13:30～15:30（13:00 受付開始）
　　令和7年8月　4日(月)　10:30～12:00（10:00 受付開始）
場所：国立大学法人山梨大学甲府西キャンパス　N号館2階　N−24教室

※その他説明会は随時開催　こちらから▼

【教職大学院授業（演習）の様子】

入試日程

●1次募集
出願期間：令和7年　8月19日(火)～8月26日(火)
試 験 日：令和7年　9月27日(土)
合格発表：令和7年10月　3日(金)

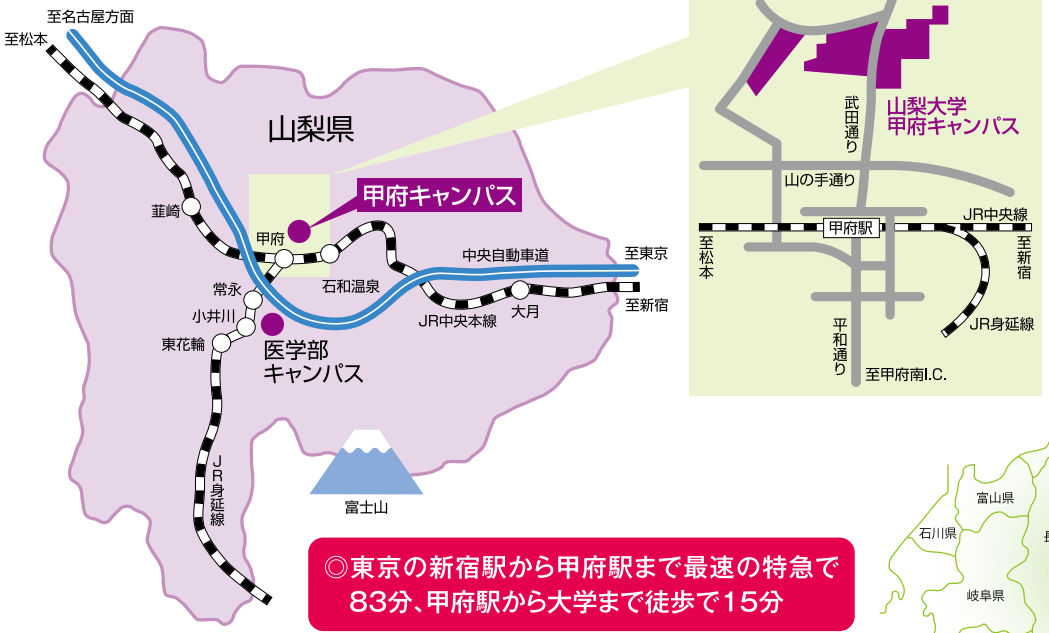
●2次募集
出願期間：令和7年11月　5日(水)～11月12日(水)
試 験 日：令和7年11月29日(土)
合格発表：令和7年12月　5日(金)

●3次募集
状況に応じて実施を検討

【院生研究室の様子】

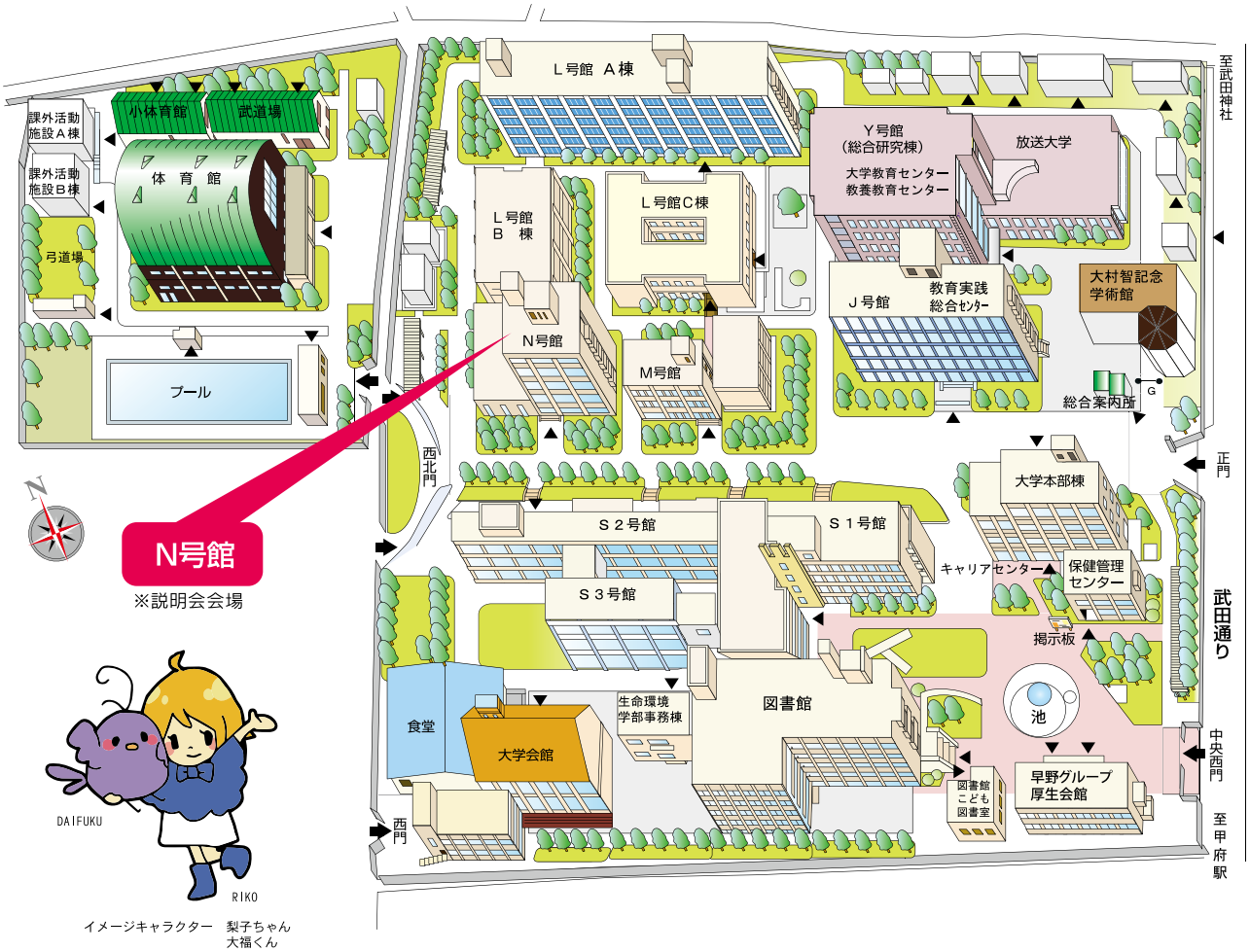
最新の情報は、山梨大学教職大学院HPをご覧ください。
https://www.edu.yamanashi.ac.jp/tgs/　「教職大学院入試情報」▶

Access



◎東京の新宿駅から甲府駅まで最速の特急で
83分、甲府駅から大学まで徒歩で15分

Campus Map（甲府西キャンパス）



イメージキャラクター　梨子ちゃん
大福くん

問い合わせ先　〒400-8510 山梨県甲府市武田四丁目4-37　山梨大学教育学域支援課教務グループ
電話：055-220-8735　E-mail：e-kyoumu@yamanashi.ac.jp